



赤松の苗木組



地面に溝を掘って、ロシア赤松を植える

13:10 昼食後、ロシア国境の街(セレンゲ地区)へ。途中ゴミの山を発見。ゴミの回収には金がかかるから、郊外へ持ち出し捨てて(不法

11:10 現地ドジンナルスへ到着。以前に大規模な山林火災により地域の約70%(32000ha)が被害に見舞われたと聞き、今も焼け焦げた木々が沢山あった。準備をお願いしておいた現地の人たちから、植林のやり方を聞き、用意してあった400本のロシア赤松の木を総勢25名で植えた。準備万端整っていたから、一時間半そこそこで作業は終了した。



植林により僅かに回復した赤松林



山火事で焼けたり、伐採で丸裸の大地

12:20 高速道を左側に曲がり、草原地帯の中を進みキャンプ地(ソゴ

07:30 朝食。疲れが出始めているせい
09:30 ホテル出発。チンバットさん以下数人の方々が鉄工所入口まで見送りに来てくれた。再会を誓い、別れを惜しんだ。
11:00 途中「オボ」のある丘にて休憩。中山会長が山の中腹で「小室節」を熱唱。

5月20日(木) 晴れ
キャンプ地ソゴトへ

18:00 ダルハンの街に無事に到着し、ホテルへチェックイン。
20:00 ホテル5階のレストランにて夕食。さすがにアルコールや食べ物もあまり喉を通らなかつた。旅の疲れと少しばかりのアルコールが利き、ベッドに倒れ込んだ。
16:30 帰路、川岸にて停車。小休止と思いきや、シートと椅子がバスから引つ張り出され、ビールにウォッカ。ハムにパンなど出てきて宴会開始。皆の会話もはずみ楽しく過ごすことができた。

14:00 国境に到着。写真撮影は厳禁という。周りの風景を見ると、ロシア側には針葉樹林が多いのに、モンゴル側はほとんど木がない状態。山火事の影響だけではないかと思つた。別の国境を目指し移動。そこには警備兵がいて、バスポート提示を求められ、さすがに緊張。お山に登ると、景色抜群で、岩の上には、鷹やトナカイの彫刻があり、とても素晴らしい場所だった。

22:00 外に出ると、1時間前とは全く違い、空は満天の星。宇宙衛星も確認でき本当にラッキーとしか言えないような鮮明な記憶に残る時を過ごした。

21:00 キャンプ・ゲルでの夕食終了。太陽はすっかり落ちていたが、外はまだ明るく照明もいらぬ状態。曇っているから満天の星空は絶望的か。

17:00 遊牧民のゲルを訪問。スウーティチャイ(ミルクティー)をいただいたが美味しかった。住民は8年ほど前からゲル生活を始めたという。移動するには、登録許可がないと移動できないらしい。モンゴルでは珍しいトナカイの仔を見せてもらった。

13:30 ゲルの1室で少し遅い昼食。どれも旅行者向けの料理と味付けとなっていて美味しかった。
14:30 乗馬体験。冬中野放しにされて痩せこけた馬は、まだ牧草の生えない草原で調教が怠ならず、今年初めての乗馬ということもあり、馬の体調が微妙で、強風と馬の具合を考慮して、キャンプ地の近くを散策と決められた。中山会長以外、乗馬は初体験ということもあり、少し緊張した。さすがに普段使っていない筋肉を使い足腰が痛かった。

07:30 朝食のためレストランに向かうが、客は私達のみで寂しい。厨房で一人のんびりと食事の用意をしているのが見え、いつになったら朝食にあり付けるかな。これが「モンゴル時間」か。朝食は簡単で2種類のパン・ソーセイジ・卵焼き・フルーツゼリー。特にパンはバサバサだ。紅茶と一緒に喉に押し込んだ。
09:30 植林先であるドジンナルス地区へ。車中には、私たちのほかチンバットさんと、会社経営のダラさん、弁護士のアヨシさん、取材のため乗り込んで来たというランバートテレビ局、ラジオ局のメンバーを含め総勢17名。

07:30

09:30